

平成24年12月期 決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に—

 **興研株式会社**

平成24年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、震災の復興需要を背景に回復の兆しはあったものの、長期化する円高や株安の影響、欧州における財政不安や中国の成長鈍化の影響等により、国内景気や企業活動にとって厳しい状況が続きました。

そのような状況の中、震災・原発事故対策用マスク等の震災特需が前事業年度に比べ半減したものの、マスク本来の必須機能であるフィットの重要性の啓発活動を継続することで、産業分野では低価格製品に打ち勝ち、医療分野では着実にシェアを伸ばしました。また、市場投入したルーム型のオープンクリーンシステム「フロアーコーチEz」が、東京大学宇宙線研究所様や島根富士通様等に採用されるなど、クリーン事業も確かな一歩を印しました。その結果、売上高は83億29百万円となり、前事業年度比6.2%減にとどめることができました。

利益につきましては、震災特需の反動減を埋めるべく原価率の低減や販売費・一般管理費の圧縮に努めたものの営業利益7億45百万円（前事業年度比36.1%減）、経常利益6億61百万円（同40.5%減）、当期純利益3億84百万円（同30.5%減）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

高フィットという優位性を持つ使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズは、自動車を中心とした産業分野に加え、保健所や感染指定医療機関等の医療分野でも採用が進みました。反面、震災対策用マスクの販売は、がれき処理が遅れていることに加え、除染作業においてはコスト優先によりサージカルマスクに流れたことなどから期初計画を下回り、売上高は73億88百万円（前事業年度比8.4%減）となりました。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

卓上型の「KOACH」である「テーブルコーチ」が、研究施設や精密機器メーカーの組立・検査ライン用として採用されるなど、ルーム型とともに動きが活発化しつつあります。加えて従来からの産業用プッシュプル型換気装置や全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」の着実な受注活動も寄与し、売上高は9億40百万円（前事業年度比16.4%増）となりました。

業績の概要

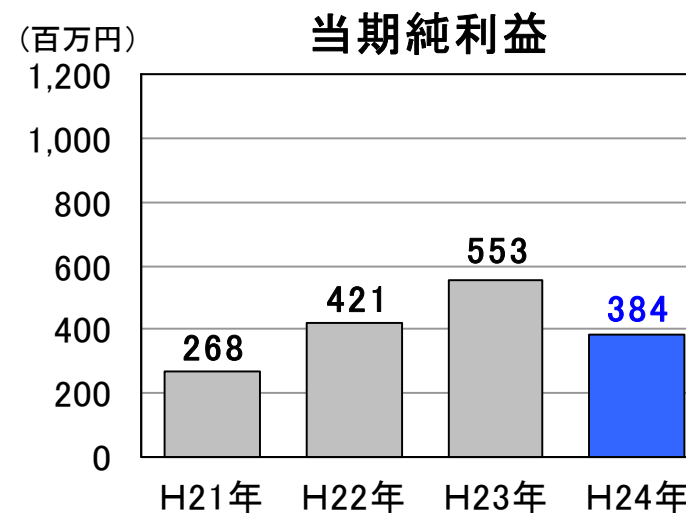
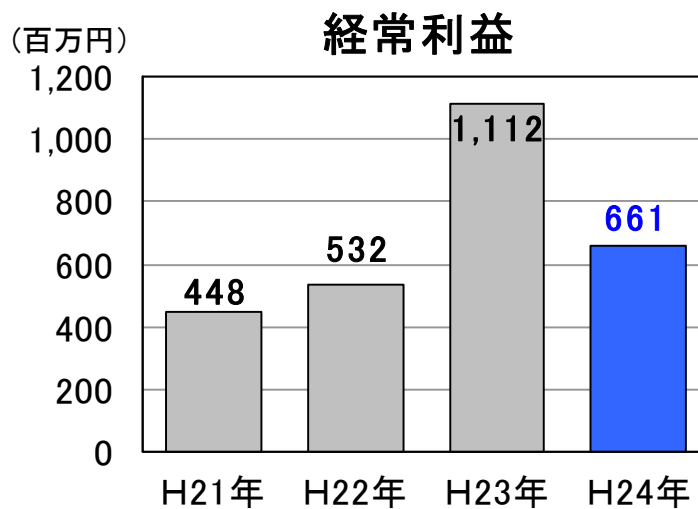
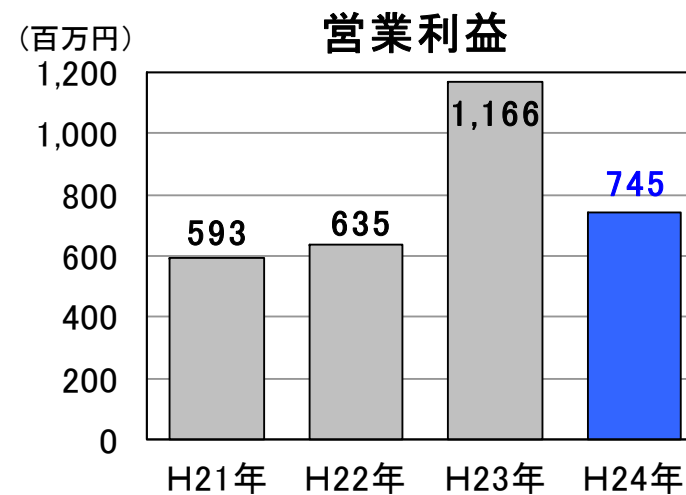
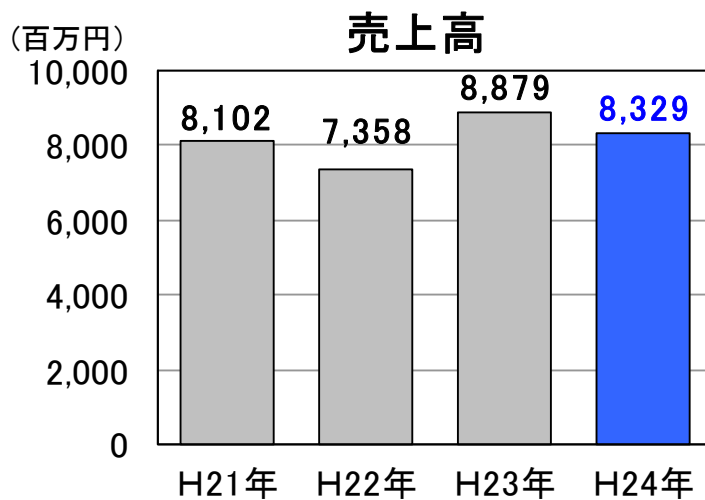
(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

	平成23年12月期		平成24年12月期		増減
	金額	比率(%)	金額	比率(%)	
売上高	8,879	100.0	8,329	100.0	△549
売上総利益	4,206	47.4	3,744	45.0	△462
営業利益	1,166	13.1	745	8.9	△421
経常利益	1,112	12.5	661	7.9	△450
当期純利益	553	6.2	384	4.6	△168
1株当たり当期純利益(円)	109.46	—	76.07	—	△33.39

	平成23年12月末	平成24年12月末	増減
総資産	16,262	15,966	△296
(年間新規設備投資額)	(782)	(526)	(△255)
負債	7,796	7,318	△477
純資産	8,466	8,647	181
自己資本比率(%)	51.7	54.1	2.4
1株当たり純資産(円)	1,663.78	1,703.16	39.38

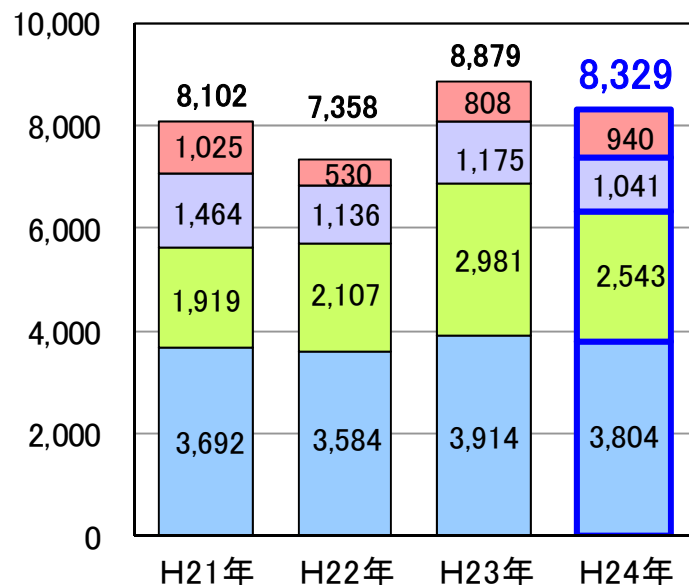
売上高・利益の推移

(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)



セグメント別売上高の推移 (単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

(百万円)



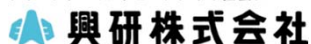
平成24年12月期のセグメント別の状況

マスク関連事業(防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)
 震災特需は半減したものの、使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズが感染対策用マスクとして約4割の保健所や感染症指定医療機関への導入が進み、前事業年度比8.4%の減収にとどめました。

その他事業(環境関連事業等を含む)
 新製品「フローコーチEz」と「テーブルコーチ」の納入に加えて、全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」の顧客満足度向上にともなう増設や買い替え需要が増加し、前事業年度比16.4%の増収となりました。

品目区分	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
防じんマスク	3,692	45.5%	3,584	48.7%	3,914	44.1%	3,804	45.7%
防毒マスク	1,919	23.7%	2,107	28.7%	2,981	33.6%	2,543	30.5%
防じんマスク・防毒マスク関連その他製品	1,464	18.1%	1,136	15.4%	1,175	13.2%	1,041	12.5%
マスク関連事業計	7,076	87.3%	6,828	92.8%	8,070	90.9%	7,388	88.7%
その他事業(環境関連事業等を含む)	1,025	12.7%	530	7.2%	808	9.1%	940	11.3%
合計	8,102	100.0%	7,358	100.0%	8,879	100.0%	8,329	100.0%

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に



トピックス

◇ タイに生産子会社を設立

当社は、産業用、医療用として販売増が続く使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズの今後の需要拡大に対応するとともに、海外生産を行うことで製造コストを低減し、製品競争力を向上させることを目的として、タイに生産子会社を設立いたしました。

タイに製造拠点を置く理由は、発展が続く東南アジア諸国での事業拠点とすることと、インフルエンザの流行のピークが異なる海外での生産体制を構築し、国内でのパンデミック発生時におけるマスクトップメーカーとしての供給責任を果たすためです。

子会社の概要は以下の通りです。

- | | |
|-------|---------------------------|
| ①名称 | SIAM KOKEN LTD. |
| ②所在地 | タイ国 チョンブリ県 |
| ③事業内容 | マスクの製造・販売 |
| ④資本金 | 150百万バーツ(約400百万円) |
| ⑤出資比率 | 興研100% |
| ⑥代表者 | 社長堀口展也
(当社常務取締役製造本部担当) |
| ⑦事業開始 | 平成26年(予定) |



使い捨て式防じんマスク
「ハイラック」シリーズ

◇テレビ番組の実験に協力

マスクの厳密な性能測定ができる企業としてNHKの情報番組「ためしてガッテン」より撮影の協力依頼があり、当社飯能研究所にて「マスクの漏れ率測定試験」などの収録が行われました。

またスタジオでは、当社製のフィット君（人頭＋人工肺シミュレーター）によるマスク性能テスト並びに電動ファン付き呼吸用保護具の内、原子力発電所で使用されその高い安全性と作業性で好評を博している「ブレスリンクブロワーマスク BL-711」も紹介されました。

その後、民放各社より「インフルエンザ」「花粉症」「PM2.5」対策としてのマスクの取材・撮影が相次ぎました。当社は、「マスクはフィルター性能、フィット性能がともに重要」ということを一般の方にも広くご理解していただくため、マスクの漏れ率を測定する実験等に協力した結果、各番組で取り上げられ、「ハイラック」シリーズ及び測定シーンの放映が続きました。

今後も、「正しいマスクの選び方、使い方」を啓発する活動の一環として、テレビ、新聞、雑誌等の取材・撮影協力を継続して参ります。



NHK「ためしてガッテン」での撮影風景

研究開発

◇新型全面形防じん・防毒マスク／電動ファン付き呼吸用保護具

厚生労働省は平成24年8月、東京電力福島第一原子力発電所事故での教訓を踏まえた通達『原子力施設における放射線業務及び緊急作業に係る安全衛生管理対策の強化について』を示しました。当社は、この通達に対応する新型の全面形防じん・防毒マスクと電動ファン付き呼吸用保護具を開発し、市場投入いたしました。

【全面形防じん・防毒マスク サカキ式1521型】

顔面を囲う幅広い凹面状の部が吸盤効果となって顔に吸いつく当社独自の「HAWCリップ」構造を採用。フィルターは前後に可動し、広視界の確保とフードとのシーリング、除染のしやすさを両立しています。同マスク用の防じん機能付き吸収缶「サカキ式RDG-2HP型」は、放射性ヨウ化メチルに対し長時間の除毒能力を有しており、また通達が求める備蓄への対応として、製造から5年の長期保存が可能なアルミパック包装の仕様を用意しております。



【電動ファン付き呼吸用保護具 サカキ式BL-711】

マスク内を常に陽圧に保つ電動ファンの搭載や面体の吸盤効果による高フィットを生み出す「HAWCリップ」構造などにより、高い安全性を実現。また、常用メガネを掛けるためのワイド設計や現場の安全な行動を支援するスピーカー、そして傷つきにくいアイピースなど、実際に原子力施設でマスクを装着、メンテナンスする作業者のご不満を解決する特長も兼ね備えたマスクです。



◇オープンクリーンシステム「KOACH」

当社は昨年、フルオープン型とルーム型で構成される「KOACH」全機種で、ISOクラス1のスーパークリーンを実現しました。そして、顧客ニーズに応える2つの新技術を開発しております。

【フロー分岐器】

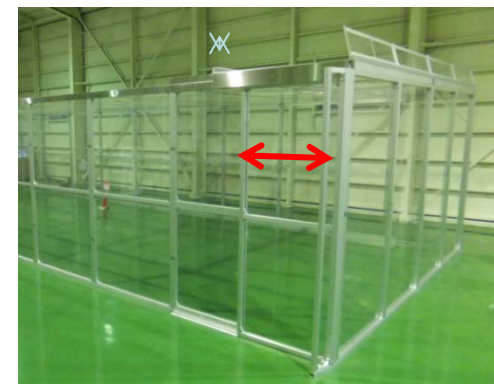
クリーンルーム内の例外的な高発じん対策として、「フロアーコートEz」のサイドフロー中の一部を誘導気流によってダウンフロー化する技術。コンタミネーション含有空気を床面に這わせる「D-1」と「フロアーコートEz」外への排出が可能な「DC-1」があります。



【スリープモード付きオープンクリーンルーム フロアーコートExp・Ezp】

ガイドスクリーンの付いたルーム型の「フロアーコートEx・Ez」は、全換気時間(スイッチONから全域が目標クリーン度を達成する時間)が極めて短いため、作業休止時には電源をOFFにできることが特長ですが、「休止中でもルーム内は常に高クリーン度を維持したい」「常時稼働させたいが、電気代が高い」という声も多く聞かれます。そのような要望に応じて開発したのが、スリープモード付きオープンクリーンルーム「フロアーコートExp・Ezp」です。

スリープモード時は、オープン部分のスライドスクリーンを閉鎖し、ISOクラス1のクリーン度が維持できる送风量に減らすことで、消費電力を通常運転時の7割カットを実現し、最終的には一般のクリーンルームの10分の1以下にまで消費電力を抑えます。



平成25年12月期の業績予想

次期見通し

次期における国内経済は、政府主導の経済対策の実施や為替水準の変動を受け、企業収益の改善に期待感が出ているものの、世界経済の不安定さの懸念は依然として払拭されておらず、今後も注視していく必要があると思われま

す。そのような環境の中、当社はオープンクリーンシステム「KOACH」を中心としたクリーン事業に注力して参ります。高い清浄度、消費電力の低さに加え、スリープモードという省エネ機構を搭載した新製品を市場投入し、国内の電力事情を背景としたクリーンルーム市場の節電対策の切り札としての営業展開も強力に進めて参ります。

また、官公庁や地方自治体の緊急用・備蓄用マスクの受注などにも積極的に取り組むことで、震災特需の剥落を補い、売上高は、84億円(当事業年度比0.8%増)と当事業年度を若干上回る見通しです。

利益につきましては、新規事業の積極展開にともなう諸経費の増加等により、営業利益6億50百万円(当事業年度比12.8%減)、経常利益5億80百万円(同12.4%減)、当期純利益3億50百万円(同9.1%減)となる見通しです。セグメント別の見通しは以下の通りであります。

区分	平成24年12月期 実績	平成25年12月期 予想
売上高	8,329	8,400
営業利益	745	650
経常利益	661	580
当期純利益	384	350
1株当たり当期純利益	76.07	69.04

(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

(マスク関連事業)

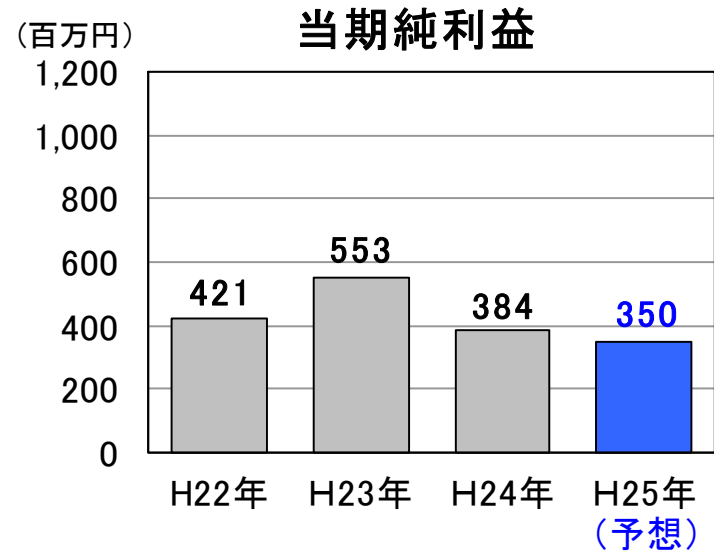
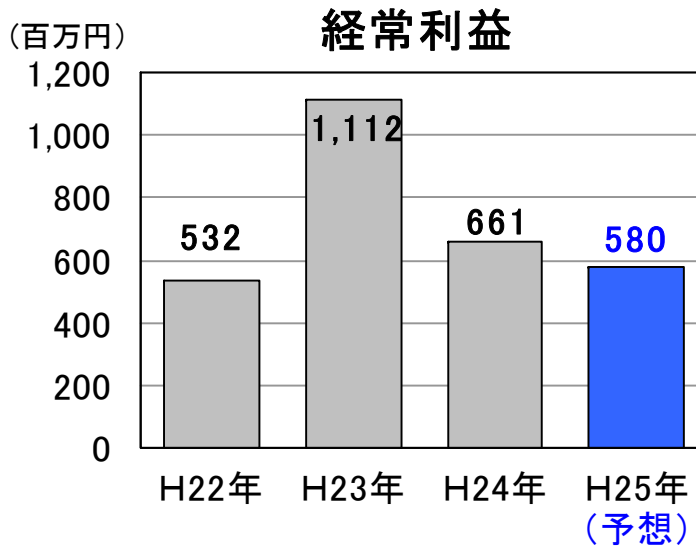
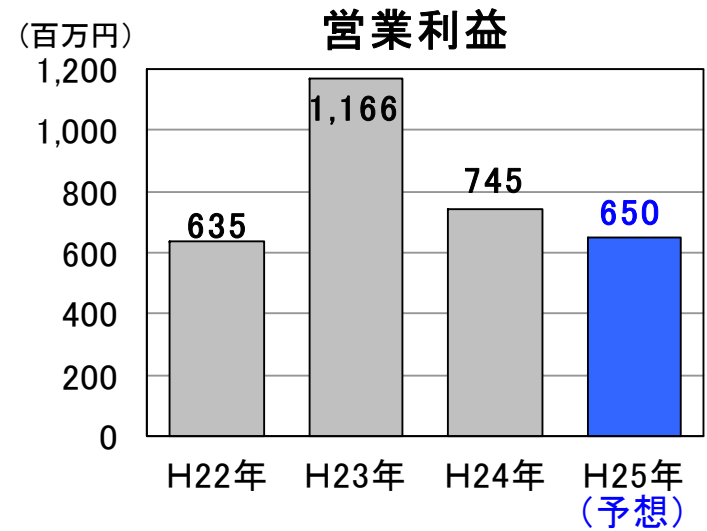
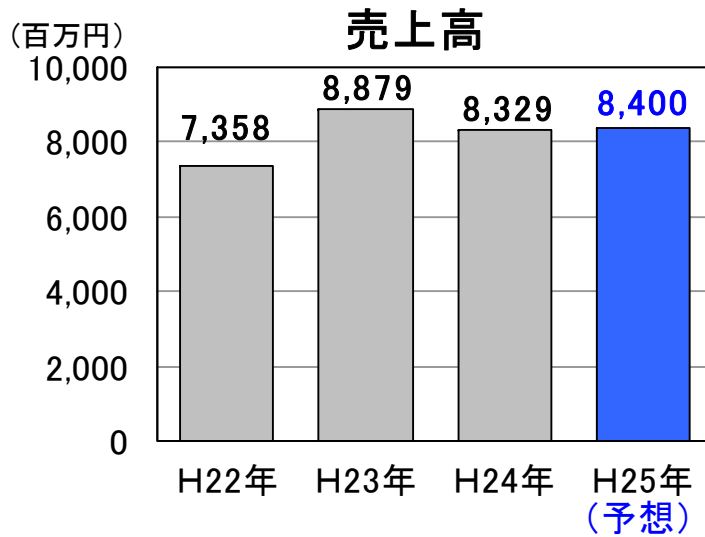
主力マーケットである製造業での落ち込みや震災特需の収束が予想される中、マスクメーカーの使命であるフィットの啓発活動を産業、医療の両分野で継続しながら、電動ファン付き呼吸用保護具や感染対策用マスク等を拡販して参ります。売上高は68億円(当事業年度比8.0%減)となる見通しです。

(その他事業/環境関連事業等を含む)

「KOACH」は、ルーム型の引き合い物件の成約を進めるとともに、大学や研究機関を主力顧客とする代理店の販売網を活用した「テーブルコーチ」の販促を行い、また全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様からの高評価を後楯とした営業を継続することで着実に受注に結び付け、売上高は16億円(当事業年度比70.0%増)となる見通しです。

業績予想

(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)



本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成24年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」発表日（平成25年2月12日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>